

愛玩動物看護師国家試験 出題基準

2022 年 4 月

一般財団法人動物看護師統一認定機構

愛玩動物看護師国家試験出題基準について

1. はじめに

愛玩動物看護師国家試験は、愛玩動物看護師法（令和元年法律第 50 号）第 29 条に基づき愛玩動物看護師として必要な知識及び技能について行われる。また、同法第 2 条第 2 項において、愛玩動物看護師は、愛玩動物に対する診療の補助及び疾病にかかり、又は負傷した愛玩動物の世話その他の愛玩動物の看護並びに愛玩動物を飼養する者その他の者に対するその愛護及び適正な飼養に係る助言その他の支援を業とする者とされている。このような愛玩動物看護師として業務を行うために必要な知識及び技能を具体的な項目で示したものが愛玩動物看護師国家試験出題基準である。愛玩動物看護師国家試験の妥当な内容、範囲及び適切な水準を確保するため、愛玩動物看護師国家試験委員はこの出題基準に準拠して出題するものとする。また、この出題基準は、大学や養成所が行う教育内容のすべてを網羅するものではなく、教育の在り方を拘束するものではない。なお、同法附則第 2 条第 2 号の愛玩動物看護師国家試験予備試験は、試験を受けようとする者が大学や養成所において愛玩動物看護師に必要な知識及び技能を修得した者と同等の知識及び技能を有するかどうかを判定することを目的としている。このため、愛玩動物看護師国家試験と同様に、この出題基準に準拠して出題するものとする。

2. 愛玩動物看護師国家試験出題基準について

(1) この出題基準は、大学及び養成所において履修すべき科目から成る以下の 4 つの科目群で編成されている。

① 基礎動物学

生命倫理・動物福祉、動物形態機能学、動物繁殖学、動物行動学、動物栄養学、比較動物学、動物看護関連法規、動物愛護・適正飼養関連法規

② 基礎動物看護学

動物看護学概論、動物病理学、動物薬理学、動物感染症学、公衆衛生学

③ 臨床動物看護学

動物内科看護学、動物外科看護学、動物臨床看護学総論、動物臨床看護学各論、動物臨床検査学、動物医療コミュニケーション

④ 愛護・適正飼養学

愛玩動物学、人と動物の関係学、適正飼養指導論、動物生活環境学、ペット関連産業概論

(2) 科目、大項目、中項目及び小項目については概ね次のような考え方で分類している。

① 科目

「愛玩動物看護師カリキュラム等検討会報告書」（令和 3 年 3 月 30 日公表。以下「報告書」という。）に記載されている大学及び養成所において履修すべき科目である。

② 大項目

報告書に記載された履修すべき科目の概要の要点を示したものである。

③ 中項目

報告書に記載されている到達目標の各項目を示したものである。

④ 小項目

報告書に記載されている到達目標に基づき、中項目の内容を具体的に記載しているものである。他方、出題は、この出題基準に記載された事項に限定されるものではない。例えば、社会情勢等を踏まえ、愛玩動物看護師に求められる知識及び技能についても出題される。

(3) 問題数は、200 問とし、問題の性質は概ね以下の 3 区分とする。予備試験は必須問題及び実地問題に限定する。

① 必須問題・・・50 問程度

愛玩動物看護師として特に重要かつ基本的な事項を問う問題

② 一般問題

愛玩動物看護師に求められる知識及び技能を問う問題

③ 実地問題・・・50 問程度

現場で実際に起こり得る症例・事例に対する対処方法等の総合的な事項を問う問題

(4) 各項目における記号等は、多少の例外はあるが、概ね以下の要領により使用している。

「・」：前出または後述の修飾語が同等にかかる場合

(例) 血管の種類・構造・機能

「と」：同等な語を 2 語並列する場合

(例) 適正飼養と福祉

「、」：同等な語を 2 語以上並列する場合

(例) 着床、発生、妊娠、胎児の発育

I. 基礎動物学

大項目	中項目	小項目	対応科目
A. 生命倫理の考え方、動物愛護と動物福祉	1. 生命倫理の概念	1)生命倫理の考え方 2)生命倫理と獣医療の関わり	生命倫理・動物福祉
	2. 動物福祉の概念	1)動物福祉の考え方 2)5つの自由 3)動物愛護運動 4)動物の権利と動物福祉の思想・課題 5)動物福祉の指標・評価法 6)安楽死の考え方	
	3. 愛玩動物の福祉	1)適正飼養と福祉 2)動物保護活動 3)飼育放棄と殺処分 4)動物虐待 5)災害時対応	
	4. 産業動物の福祉	1)産業動物の福祉 2)国際的な福祉基準 3)福祉向上のための具体的方法	
	5. 実験動物の福祉	1)実験動物の福祉 2)3R (Replacement (代替)、Reduction (削減)、Refinement (改善))	
	6. 展示動物の福祉	1)展示動物の福祉 2)環境エンリッチメント	
B. 動物の形態・機能、生命維持の仕組み	1. 生命のすがた	1)細胞の構造・機能 2)DNAの働き 3)組織の構造・機能 4)器官と維持調整システム	動物形態機能学
	2. 循環器とその調節	1)心臓の構造 2)心筋細胞と興奮伝導系 3)心臓の機能、心電図、心音 4)血管の種類・構造・機能 5)血圧調節機構	
	3. 呼吸器とその調節	1)呼吸器の構造 2)換気の仕組み 3)肺胞でのガス交換 4)血液による酸素と二酸化炭素の運搬 5)呼吸の調節機構	

大項目	中項目	小項目	対応科目
	4. 消化器と栄養代謝	1) 消化管の構造・機能 2) 唾液腺・膵臓・肝臓の構造・機能 3) 消化と吸収 4) 各種栄養素（糖質、タンパク質、脂質）の代謝	
	5. 内分泌とホルモン	1) 内分泌の定義 2) ホルモンの性質・機能・生成・分泌とフィードバック調節 3) 内分泌臓器の構造・機能 4) ホルモンの作用と標的器官	
	6. 泌尿器と体液調節	1) 腎臓とネフロンの構造・機能 2) 腎クリアランス 3) 尿細管と集合管の機能 4) 体液の分布・区分・調節機構 5) 電解質バランス 6) 酸-塩基平衡	
	7. 脳と神経	1) ニューロンとシナプス 2) 脳の構造・機能 3) 脊髄の構造・機能 4) 体性神経の構成・機能 5) 自律神経の構成・機能	
	8. 運動器	1) 骨格の構成 2) 骨の形状・構造 3) 関節の構造・機能 4) 骨格筋の構造・収縮機構 5) 骨格筋の名称・機能	
	9. 血液と造血器	1) 血球成分と血漿成分 2) 赤血球の構造・機能 3) 白血球の構造・機能 4) 血小板と血液凝固、線溶系	
	10. 皮膚と感覚器	1) 皮膚の構造・機能 2) 皮膚の付属器官 3) 体性感覚 4) 特殊感覚	
C. 動物の繁殖に関わる形態・機能、遺伝学の基礎知識	1. 生殖器	1) 生殖器（雌、雄）の基本構造 2) 主要な性ホルモンの名称・産生部位・標的器官	動物繁殖学

大項目	中項目	小項目	対応科目
		3) 雄の繁殖生理 4) 雌の繁殖生理	
	2. 性周期と交配	1) 性成熟と発情徴候 2) 排卵（自然排卵、交尾排卵）の仕組み 3) 性周期と膣細胞スメアの関係 4) 交配適期の決定法	
	3. 妊娠と分娩	1) 着床、発生、妊娠、胎子の発育 2) 妊娠期間、偽妊娠 3) 分娩と助産、帝王切開 4) 去勢・不妊手術 5) 人工授精	
	4. 新生子管理	1) 新生子の飼養環境 2) 初乳の意義と哺乳 3) 新生子の発育過程	
	5. 遺伝学概論	1) 遺伝のメカニズム 2) 遺伝様式（顕性と潜性、伴性遺伝など） 3) 遺伝子疾患、発生異常	
D. 犬猫の行動様式と問題行動	1. 動物行動学の基礎	1) 動物行動学の4つの問い（適応、進化、機構、発達） 2) 行動の進化・適応、家畜化 3) 生得的行動と学習行動 4) 脳による行動制御	動物行動学
	2. 個体維持行動	1) 摂食と飲水行動 2) 排泄行動 3) 身づくろい行動 4) 護身行動	
	3. 発達過程と社会行動	1) 発達ステージ（新生子期、移行期、社会化期、若年期、成熟期、高齢期）と各時期の行動学的特徴 2) 生殖行動（性行動、母性行動） 3) コミュニケーション行動 4) 敵対行動と親和的行動	
	4. 学習理論	1) 行動形成 2) 馴化と感作 3) 古典的条件づけとオペラント条件づけ 4) 学習に影響を与える因子 5) 基本的なトレーニング法（トイレトレーニング）	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		ング、クレートトレーニング、甘噛み対策など)	
	5. 問題行動	1) 問題行動の定義・要因（遺伝的要因、生得的要因、環境要因） 2) 攻撃行動の種類・原因（動機づけ）・治療法 3) 恐怖・不安に起因する問題行動の原因・治療法 4) 不適切な排泄行動の原因（動機づけ）・治療法 5) 高齢性認知機能不全の原因・臨床徴候・対応	
	6. 行動治療	1) 行動診療の進め方 2) 行動修正法と環境修正法の種類・適用 3) 行動治療における薬物療法	
E. 栄養素と代謝、栄養とライフステージ・疾患、療法食	1. 基礎栄養	1) 5大栄養素（糖質、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル） 2) 栄養要求の種差（必須アミノ酸、必須脂肪酸など） 3) 食性、嗜好、嗜好性、摂食行動 4) 健康維持における栄養の持つ意味 5) 栄養素の不足・過剰症	動物栄養学
	2. 栄養要求量	1) エネルギー要求量（RER、MER など）の意味・計算法 2) 栄養基準（AAFCO、NRC など） 3) ライフステージ（成長期、維持期、妊娠期、授乳期、高齢期）ごとの栄養管理	
	3. フードと栄養指導	1) ペットフードの種類・分類 2) ペットフードのラベル表示 3) 中毒、与えてはいけないもの 4) 栄養状態の評価法（BCS、体脂肪測定など） 5) 肥満の弊害と減量プログラムの作成法	
	4. 疾患と栄養	1) 疾患時の食事療法 2) 療法食の特徴・効果	
	5. 強制給餌と経管・静脈栄養法	1) 強制給餌の方法・注意点 2) 経管栄養法の種類（経鼻、食道、胃瘻チューブなど）・特徴・方法	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		3) 静脈栄養法の種類 (TPN、PPN) ・ 特徴 ・ 方法 4) チューブやカテーテルの設置手順・管理上の注意点	
F. 動物の種類・歴史、飼養管理法	1. 動物の種類・特性	1) 愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物等の飼養動物と野生動物に関する歴史・社会的位置づけ・特徴	比較動物学
	2. 産業動物	1) 産業動物 (馬、牛、めん羊、山羊、豚、鶏) の歴史・品種・特徴 2) 産業動物の消化器の形態・機能、食性 3) 産業動物の性周期・繁殖生理 4) 産業動物の飼養施設 5) 産業動物の食性・飼養法	
	3. 実験動物	1) 動物実験の目的・意義 2) 実験動物の飼養管理・繁殖法 3) 遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御 4) 疾患モデル動物	
	4. 野生動物	1) 野生動物の分類と生物多様性 2) 鳥獣害の現状と保全の意義 3) 絶滅危惧種の定義、含まれる動物種、原因、保全方法 4) 外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策	
	5. 展示動物	1) 展示動物の意義と動物園等の役割 2) 動物園等における個体・群管理、行動管理 3) 動物園等の施設管理	
G. 動物看護に関連する法規	1. 法学総論	1) 法の体系 2) 獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり	動物看護関連法規
	2. 愛玩動物看護師法	1) 愛玩動物看護師法の目的・定義等 (免許、試験、業務、罰則を含む。)	
	3. 獣医療関連行政法規	1) 獣医師法 2) 獣医療法	
	4. 公衆衛生行政法規	1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 2) 狂犬病予防法	

大項目	中項目	小項目	対応科目
	5. 薬事行政法規	1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 2) 麻薬及び向精神薬取締法 3) 毒物及び劇物取締法	
H. 動物の愛護と適正飼養に関連する法規	1. 愛護・適正飼養の基本概念	1) 愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり	動物愛護・適正飼養関連法規
	2. 愛護・適正飼養関連行政法規	1) 動物の愛護及び管理に関する法律 2) 愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律	
	3. 社会福祉行政・環境衛生法規	1) 身体障害者補助犬法 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 3) 化製場等に関する法律	
	4. 野生動物等に関する法律及び条約	1) 生物多様性 2) 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 3) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 4) 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 5) 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 6) 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約） 7) 自然公園法における野生動植物保護に関する制度 8) 文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度	

II. 基礎動物看護学

大項目	中項目	小項目	対応科目
I. 獣医療と動物看護の歴史、愛玩動物看護師の職業倫理と社会的責務	1. 動物看護の基本となる概念	1) 動物看護の目的・概念 2) 獣医療と動物看護の歴史 3) 獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領 4) 動物の健康・福祉・QOL 5) 動物病院における愛玩動物看護師の役割	動物看護学概論
	2. 動物看護の提供体制	1) 社会における動物病院の役割 2) 一次診療・二次診療・救急獣医療の役割と連携 3) インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務 4) 診療録（カルテ）と動物看護記録の作成、保存義務 5) 職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法	
	3. 愛玩動物看護師の社会的立場	1) 愛玩動物看護師の職能団体 2) 愛玩動物看護師の資格制度・業務範囲・資格認定機関 3) 愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体 4) 動物看護師の業務と資格制度の国際的な違い	
J. 疾病による組織と臓器の変化（病変と病態）	1. 動物病理学の基礎	1) 病理解剖と病理組織学的検査の目的・意義 2) 病理組織標本の作製法 3) 病理組織学的検査の実施手順	動物病理学
	2. 細胞や組織に生じる変化	1) 変性と物質沈着 2) 壊死とアポトーシス 3) 細胞増殖のメカニズム、再生と化生、異形成 4) 過形成と肥大 5) 低形成と萎縮	
	3. 循環障害	1) 充血とうっ血 2) 出血の原因・病態 3) 血栓の成因 4) 虚血と梗塞 5) 浮腫と水腫	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		6) ショックの原因・分類・病態 7) 播種性血管内凝固 (DIC) の病態	
	4. 炎症	1) 炎症の定義と5大主徴 2) 炎症の分類・原因・特徴 3) 炎症に関与する細胞と化学伝達物質 4) 炎症の経過と治癒	
	5. 腫瘍	1) 腫瘍の定義・分類 2) 腫瘍の原因・発生機序 3) 腫瘍と宿主の関係 4) 腫瘍の転移・進行	
	6. 先天異常	1) 遺伝子・染色体異常 2) 発生異常と奇形	
K. 薬物の体内動態・作用機序、治療、副作用	1. 動物薬理学の基礎	1) 獣医臨床における薬物治療の概念・目的 2) 薬理作用とその発現機構 3) 薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄)、半減期、耐性 4) 薬物間相互作用 5) 副作用と中毒	動物薬理学
	2. 愛玩動物看護師による薬物の取扱い	1) 獣医師による投薬量計算 2) 各種投薬法 (投与経路) 3) 薬物の適切な管理方法	
	3. 神経系に作用する薬物	1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬 2) 鎮痛薬 3) 運動神経系に作用する薬 4) 鎮静薬と抗けいれん薬 5) 問題行動の治療に用いられる薬	
	4. 呼吸器系に作用する薬物	1) 呼吸興奮薬 2) 鎮咳薬 3) 気管支拡張薬	
	5. 循環器・泌尿器に作用する薬物	1) 血管拡張薬 (降圧薬) 2) 心不全治療薬 (強心薬) 3) 抗不整脈薬 4) 利尿薬	
	6. 消化器に作用する薬物	1) 制吐薬 2) 制酸薬と胃粘膜保護薬 3) 消化管運動調節薬	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		4) 止瀉薬 5) 瀉下薬 6) 肝疾患治療薬 7) 酵素製剤	
	7. オータコイド、代謝・内分泌系の薬物	1) オータコイド 2) 糖尿病治療薬 3) 甲状腺ホルモン製剤 4) ステロイドホルモン製剤	
	8. 血液・免疫系に作用する薬物	1) 抗貧血薬 2) 血液凝固抑制薬 3) 血液凝固促進薬（止血薬） 4) 非ステロイド系抗炎症薬（NSAIDs） 5) 免疫抑制薬	
	9. 感染症の治療・予防に用いられる薬物	1) 抗菌薬（作用機序による分類、抗菌スペクトルなど） 2) 抗真菌薬 3) 駆虫薬 4) 殺虫薬 5) 消毒薬	
	10. 悪性腫瘍の治療に用いられる薬物	1) 抗悪性腫瘍薬（作用機序による分類）	
L. 微生物や寄生虫の分類・生物学的特性・伝播様式、感染症の発病メカニズム・検査法・診断法・予防法・治療法、衛生管理、感染防御に関わる免疫学の基礎	1. 微生物の分類・特徴	1) 細菌の分類・形態・増殖方法・病原性 2) ウイルスの分類・形態・増殖方法・病原性 3) 真菌の分類・形態・増殖方法・病原性	動物感染症学
	2. 微生物検査	1) 検体採取と取扱い 2) 無菌環境下での手技 3) 微生物染色法、顕微鏡観察法 4) 微生物培養法 5) 抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法（PCR検査含む。） 6) 薬剤感受性試験	
	3. 寄生虫の分類・特徴	1) 原虫の分類・形態・生活環・病原性 2) 蠕虫（吸虫、条虫、線虫）の分類・形態・生活環・病原性 3) 衛生動物（ダニ、ノミなど）の分類・形態・生活環・病原性	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		4) 寄生虫疾患の検査法・診断法 5) 駆虫薬・駆除剤の使用法	
	4. 動物感染症	1) 感染経路と伝播様式 2) 感染症の成立要因 3) 主な感染症（動物臨床看護学各論の「3. 代表的な疾患」を参照）の症状・治療法・予防法 4) 消毒法、滅菌法 5) 院内感染の予防対策	
	5. 免疫学の基礎・応用	1) 免疫担当細胞とその役割 2) 自然免疫と獲得免疫 3) 液性免疫と細胞性免疫 4) アレルギー（Ⅰ～Ⅴ型）と自己免疫疾患 5) ワクチンの原理・種類、接種プログラム	
M. 環境衛生、食品衛生、疫学、人獣共通感染症	1. 公衆衛生の概要	1) 公衆衛生の目的 2) 公衆衛生行政 3) 国民衛生の動向 4) One Health と獣医療	公衆衛生学
	2. 疫学と疾病予防	1) 感染の成立 2) 疾病と健康障害の発生要因 3) 疫学調査法 4) 予防疫学 5) 人獣共通感染症とその対策 6) 狂犬病予防	
	3. 環境衛生	1) 環境衛生の歴史・背景・問題点 2) 化学物質による健康障害 3) 放射線による汚染と障害 4) 衛生動物による人や動物への被害と対策 5) 動物の咬傷による人の健康障害 6) 廃棄物の取扱い	
	4. 食品衛生	1) 食品衛生と食中毒 2) 動物性食品の衛生 3) 食品衛生管理手法（HACCP など）	

III. 臨床動物看護学

大項目	中項目	小項目	対応科目
N. 内科診療の補助に必要な知識	1. 健康の保持・増進	1) 健康診断の内容・目的	動物内科看護学
	2. 診療補助に必要な技術	1) 診察における愛玩動物看護師の役割 2) 診察室の準備と衛生管理 3) 動物種ごとの適切な接し方 4) 保定の原理・目的・方法 5) 身体検査とアセスメント項目(体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色、股動脈圧、毛細血管再充満時間(CRT)、浅在リンパ節など)	
	3. 検査・処置に必要な技術	1) 注射器の取扱い・管理方法 2) 採血の目的・方法 3) 採尿の目的・方法(穿刺、カテーテル導尿など) 4) 穿刺と吸引 5) 各種カテーテルの挿入 6) 酸素吸入 7) マイクロチップの挿入	
	4. 投薬に関わる技術	1) 薬の処方 2) 内服薬の使用法 3) 薬剤の注射法 4) 外用薬の使用法、薬浴の実施法 5) 投薬前後の注意事項	
	5. 輸液に関わる技術	1) 輸液の適用とリスク 2) 輸液計画 3) 各種輸液剤の特性と適用 4) 輸液中のモニタリング	
	6. 輸血に関わる技術	1) 輸血の適用とリスク 2) 輸血計画 3) 血液型とクロスマッチ試験 4) 各種輸血製剤の適用と特性 5) 輸血に関わる手技 6) 輸血による副反応	
	7. 心電図検査・血圧測定に関わる技術	1) 心電図検査の目的・意義 2) 心電図検査の実施方法	

大項目	中項目	小項目	対応科目
	る技術	3) 血圧測定の方法・意義・注意点	
	8. X線検査・CT・MRIに関わる技術	1) X線検査の目的・意義 2) 放射線防護 3) X線検査の実施方法と撮影体位 4) 造影検査と透視検査 5) フィルムの現像とデジタルX線撮影 6) CTとMRIの概要	
	9. 超音波検査に関わる技術	1) 超音波検査の目的・方法、保定体位 2) Bモード、Mモード、ドップラー法	
	10. 内視鏡検査に関わる技術	1) 内視鏡検査の目的・意義 2) 内視鏡検査の準備・実施方法 3) スコープの洗浄・消毒法	
	11. 神経学的検査に関わる技術	1) 姿勢反応と脊髄反射 2) 脳神経の検査法 3) 神経学的検査の評価記録法	
	12. 眼科検査に関わる技術	1) シルマー試験とフルオレセイン試験の方法・意義 2) 眼圧測定の方法・意義 3) 眼底検査の方法・意義	
	13. 皮膚・耳の検査に関わる技術	1) 皮膚病変の観察・記録法 2) 皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検 3) ウッド灯検査と真菌培養法 4) 外耳道の検査方法と意義	
O. 外科診療の補助と安全な手術の実施に必要な知識	1. 外傷、創傷管理	1) 創傷の種類・治癒過程・管理法 2) ドレーンの装着・管理法 3) 止血法 4) 骨折・脱臼の管理	動物外科看護学
	2. 術前準備	1) 術前手続（飼い主への説明、承諾書など）と術前検査 2) 無菌的処置 3) 手術衣・タオル・ドレープ類の準備・滅菌法 4) 手術器具の準備・滅菌法 5) 手術機器類（无影灯、電気メス本体など）の準備 6) 器械台の準備	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		7) 動物のポジショニング 8) 術野の消毒 9) 手洗い、手術着・手袋の着用法	
	3. 麻酔	1) 麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割 2) 麻酔リスクの評価（ASA 分類など） 3) 麻酔前投与（鎮静など） 4) 注射麻酔（局所麻酔を含む。）の手技 5) 吸入麻酔の手技 6) 導入時と覚醒時のリスクと対処法 7) 麻酔看視項目（心電図、心拍数、呼吸数、体温、血圧、動脈血酸素飽和度、呼吸終末二酸化炭素濃度など）の監視方法・意義 8) 麻酔記録の作成法	
	4. 術中補助	1) 手術器具（メス、鉗子など）の名称・使用法 2) 縫合材（縫合針、縫合糸）の分類・使用法 3) 歯科器具の名称・使用法 4) 直接補助（手袋着用下での補助）の内容 5) 間接補助（手術回りの補助）の内容	
	5. 術後管理	1) 麻酔覚醒後の動物のモニタリング 2) 疼痛管理の意義・方法 3) 術創管理と包帯法 4) 褥創の予防・対処法（体位変換など） 5) 退院時の注意点と飼い主への説明事項	
	6. 救急救命	1) エマージェンシーの原因・病態 2) 一次救命措置（BLS） 3) 二次救命措置（ALS） 4) 気管挿管と心肺蘇生の方法	
	7. 動物理学療法	1) 動物理学療法目的・意義 2) 代表的な理学療法の原理・手技	
P. 動物看護過程の基本的な考え方とプロセス	1. 動物看護過程	1) 動物看護過程の目的・意義・方法 2) 動物看護過程の各ステップ 3) アセスメント 4) 事例ごとの個別性、情報の整理・解釈 5) 問題の明確化と動物看護計画の立案 6) 動物看護過程の実施・評価	動物臨床看護学総論

大項目	中項目	小項目	対応科目
	2. 診療記録	1) 診療録（カルテ）の作成方法 2) 動物看護記録の目的・書式、事例に応じた作成法	
	3. 動物看護業務	1) チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割 2) ケアの標準化（クリティカルパス） 3) 事故管理、防止システム 4) 若齢動物看護の特徴 5) 高齢動物看護の特徴、褥瘡 6) 家庭での継続看護を視野に入れた退院計画と指導	
	4. ターミナルケアに関わる技術	1) ターミナルケアの目的・意義 2) QOL、ホスピス、緩和ケア 3) グリーフケア 4) 死亡した動物への対応とエンゼルケア	
Q. 疾患の徴候・処置・治療に関する知識、罹患動物の評価と看護の方法	1. 徴候・疾患への対処	1) 代表的な徴候、病態、疾患 2) 徴候の評価・記録法 3) 痛みの評価 4) 徴候・疾患に基づいた援助	動物臨床看護学各論
	2. 代表的な徴候	1) 全身徴候：食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、消瘦 2) 特異的徴候：運動不耐、咳、心雑音、不整脈（房室ブロック、期外収縮、心房・心室細動）、高血圧、努力性呼吸、流涎、嘔吐、吐出、下痢、便秘、血便、黄疸、頻尿、血尿、多飲多尿、跛行、掻痒、発作、視力障害、難聴、眼振、斜頸、貧血、出血傾向 3) 特異的病態：尿毒症、肝性脳症、褥瘡、播種性血管内凝固（DIC）	

大項目	中項目	小項目	対応科目
	3. 代表的な疾患	1) 循環器疾患：僧帽弁逆流症、心筋症、血栓塞栓症、心膜腹膜横隔膜ヘルニア、心房中隔欠損、心室中隔欠損、卵円孔開存、右大動脈弓遺残症、動脈管開存症、犬糸状虫症 2) 呼吸器疾患：猫上部気道感染症、鼻炎、軟口蓋過長、気管虚脱、短頭種気道症候群、気管支拡張症、気管支炎、肺炎、肺水腫、猫喘息、膿胸、ジステンパー、ケンネルコフ 3) 消化器・栄養代謝性疾患：歯石症、不正咬合、歯肉炎、歯周炎、口蓋裂、口内炎、食道炎、食道狭窄、巨大食道症、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群（GDV）、胃炎、蛋白喪失性腸症（PLE）、炎症性腸疾患（IBD）、食事反応性下痢（FRD）、抗菌薬反応性下痢（ARD）、腸リンパ管拡張症、消化管内異物、腸閉塞、腸捻転、腸重積、巨大結腸症、直腸脱、会陰ヘルニア、パルボウイルス感染症、肝炎、肝硬変、肝リピドーシス、門脈体循環シャント、胆嚢粘液嚢腫、膵炎、膵外分泌不全症（EPI） 4) 泌尿器疾患：急性腎障害（AKI）、慢性腎臓病（CKD）、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症（PLN）、尿路感染症、尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患（FLUTD）、尿道閉塞症、レプトスピラ症 5) 内分泌疾患：甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症（クッシング症候群）、副腎皮質機能低下症（アジソン病）、尿崩症 6) 生殖器疾患：潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大、子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、陰脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍 7) 整形外科疾患：骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靱帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫 8) 皮膚疾患：膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡、外耳炎、疥	

大項目	中項目	小項目	対応科目
		癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ 9) 神経疾患：脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群 10) 眼疾患：結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障、核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出（チェリーアイ）、異所性睫毛 11) 造血器・免疫介在性疾患：免疫介在性溶血性貧血（IMHA）、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、バベシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎（FIP）、猫白血病ウイルス（FeLV）感染症、猫免疫不全ウイルス（FIV）感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫 12) 緊急疾患：交通事故、感電、熱傷、熱中症、中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー	
	4. 担がん動物の看護	1) がん診断のための検査と治療の手順 2) 腫瘍随伴症候群 3) がん治療を受けている動物の看護援助 4) 担がん動物の治療、化学療法の副作用	
R. 臨床検査の原理・方法・意義と検体・測定機器の扱い方	1. 臨床検査の基礎	1) 臨床検査における愛玩動物看護師の役割 2) 基準値、感度、特異度、精度管理 3) 検体採取法（血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など）	動物臨床検査学
	2. 血液検査	1) 血漿と血清の分離法 2) 全血球計算法（CBC） 3) 血液塗抹の作製法・観察法 4) ヘマトクリット管を用いた検査 5) 凝固検査の目的・意義 6) 血液化学検査の目的・意義 7) 血液ガス検査の目的・意義 8) 免疫学的検査の目的・意義	
	3. 尿検査	1) 尿の性状検査 2) 尿沈渣	

大項目	中項目	小項目	対応科目
	4. 糞便検査	1) 虫卵・原虫の検出法 2) 細菌の観察法	
	5. 細胞診と病理組織検査	1) 細胞診断の目的・方法 2) 病理組織検査検体の取扱い	
	6. 遺伝子検査	1) 遺伝子検査の目的・応用 2) 遺伝子検体の採取と取扱い	
S. 事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーション	1. クライアントエデュケーション	1) 適正飼養と健康管理 2) 動物と飼い主が良好な関係を構築する方法 3) 病気の適切な予防法（予防接種、フィラリア予防、ノミ・ダニ予防、歯科予防、去勢・不妊手術など） 4) 在宅看護等におけるコミュニケーション技能	動物医療コミュニケーション
	2. 院内コミュニケーション	1) 飼い主へのインフォームドコンセント 2) 獣医療面接のプロセス（導入、稟告、質問、傾聴、要約、確認、終結など） 3) チーム獣医療におけるコミュニケーション技能（報告、連絡、相談）	
	3. 院内業務	1) 受付業務（診療受付、電話対応、精算、トラブル対応など） 2) 物品購入と管理 3) ペット保険	

IV. 愛護・適正飼養学

大項目	中項目	小項目	対応科目
T. 愛玩動物と使役動物の歴史・品種・役割、適切な飼養管理方法	1. 歴史、品種	1) 犬の歴史・品種、活用と被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど） 2) 猫の歴史・品種、活用と被毛の手入れ（品種に適したグルーミングなど） 3) エキゾチック動物の種類・特徴・生態 4) 血統と血統書	愛玩動物学
	2. 使役動物	1) 使役動物（犬、その他の動物）の歴史・福祉 2) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の歴史・現状 3) 補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の役割・育成・適性 4) その他の使役犬（災害救助犬、警察犬、麻薬探知犬、検疫探知犬など）の種類・特徴・現状	
	3. 愛玩動物の飼養管理	1) 犬の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練など） 2) 猫の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢など） 3) 愛玩鳥の適切な飼養管理方法（飼養環境、体調管理など） 4) エキゾチック動物（ウサギ、ハムスターなど）の適切な飼養管理方法（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理など）	
	4. 動物の基本的な取扱い	1) 動物を安全に散歩・運動させることの意義 2) グルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）の目的・方法 3) 適切な飼養環境とストレスの緩和方法	
U. 動物が人間社会で果たしている役割、人と動物との関係、その背景・歴史	1. 人間と動物との関わり	1) 動物の飼養・利用の歴史 2) 動物観、動物との関わり方の欧米と日本との相違 3) 動物の飼養・利用の現状	人と動物の関係学

大項目	中項目	小項目	対応科目
	2. 人間の福祉と愛玩動物の関わり	1) 動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識 2) 多頭飼育問題 3) 愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵、飼養困難になる様々な事情	
	3. 動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育	1) 動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響 2) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的・内容 3) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生学的適性、行動学的適性 4) 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する獣医師と愛玩動物看護師の関わり 5) 道德教育の一環としての学校飼育動物の飼育の目的・実態、愛玩動物看護師の関わり	
V. 愛玩動物適正飼養の推進、災害時の危機管理、動物愛護管理行政	1. 愛玩動物の飼養	1) 愛玩動物の適正飼養の目的・概念 2) 愛玩動物飼養の現状 3) 愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点 4) 愛玩動物飼養のニーズ・目的、グリーフケア、ペットロスへの支援	適正飼養指導論
	2. 適正飼養の推進	1) 適正飼養支援の目的と活動 2) 動物取扱業者の適正飼養 3) 愛玩動物の過剰繁殖問題と対策 4) 問題行動予防のための適切な飼養としつけ、飼い主への指導事項と方法	
	3. 災害危機管理と支援	1) 災害時の同行避難 2) 愛玩動物とその飼い主の災害への備え 3) 災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割	

大項目	中項目	小項目	対応科目
	4. 動物愛護管理行政	1) 公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割 2) 動物愛護週間の役割と実施状況 3) 犬・猫の引取りと収容、処分の状況 4) 動物による事故の内容と報告状況 5) 動物愛護管理センターの活動、動物愛護推進員・協議会の役割 6) 動物取扱責任者の選任条件・役割	
W. 人と愛玩動物の共生のための生活環境のあり方を踏まえた愛玩動物の飼養環境整備	1. 飼養環境整備	1) 動物行動学を踏まえた人と愛玩動物のための飼養環境整備の必要性・方法 2) ペット共生住宅の現状と環境整備・管理の方法	動物生活環境学
	2. ペットツーリズム関連施設、ドッグラン	1) ペットツーリズムの現状と実施方法 2) ペット同伴宿泊ホテルの環境整備・管理の方法 3) ドッグランの環境整備・管理の方法 4) 愛玩動物関連イベント活動の企画運営と地域振興	
	3. 保護収容施設	1) 動物シェルターや災害時の避難施設の環境整備・管理の方法、シェルターメデイスン 2) 動物愛護管理センターの役割、施設の概要、普及啓発活動	
	4. 愛玩動物の教育・訓練施設	1) 動物の社会化トレーニングの意義、必要性、方法、施設等	
	5. 動物介在教育施設	1) 学校飼育動物等の施設の環境整備・管理の方法	
	6. 愛玩動物飼育のマナー、事故やケガ等のリスクへの対応	1) 飼育マナーの必要性・目的 2) 飼育マナーの歴史、地域による違い 3) 地方自治体における飼育マナーに関する条例 4) 愛玩動物の種類ごとの飼育マナー 5) ペット保険の仕組み・実態	
X. ペット関連産業の概要と課題、従事者の職業倫理・行動倫理	1. ペット関連産業における職業倫理と行動倫理	1) ペット関連産業従事者の責任と社会的役割（職業倫理） 2) 商取引における関連法規	ペット関連産業概論

大項目	中項目	小項目	対応科目
		3) 動物の愛護及び管理に関する法律に基づく商取引における事前説明の意義・必要性・実施方法	
	2. 愛玩動物の飼養実態と市場規模	1) 愛玩動物の飼養実態、ペット関連産業の概要と市場規模	
	3. ペット関連産業の現状と課題	1) ペットフード、ペット用品、ペット関連サービス（生体分野、美容・ヘルスケア分野、レクリエーション・観光分野、葬儀・霊園分野、獣医療分野、ペット共生住宅・マンション分野など）の現状・課題	
	4. 動物取扱業	1) 動物取扱業制度の概要 2) 動物取扱責任者に必要な実践的知識、動物の取扱方法や衛生管理に係る手法	